



梅田 誠 先生

略歴

1983年 3月 東京医科歯科大学歯学部卒業
1987年 3月 東京医科歯科大学大学院歯学研究科博士課程修了
1987年 4月 東京医科歯科大学助手
1996年 3月 文部省在外研究員（米国ロサンゼルス市南カリフォルニア大学）
2000年 4月 東京医科歯科大学大学院助手
2007年 4月 東京医科歯科大学大学院助教
2011年 1月 東京医科歯科大学大学院講師
2011年10月 大阪歯科大学歯周病学講座主任教授
2011年12月 大阪歯科大学大学院教授
2018年 4月 大阪歯科大学中央歯学研究所所長

日本歯周病学会専門医・指導医，日本歯科保存学会専門医・指導医

歯周病に関連する全身疾患

大阪歯科大学歯学部 歯周病学講座
梅田 誠

歯周病は歯周病原細菌という悪玉菌によって進んでいくことが知られるようになってきました。この歯周病原細菌は、歯周ポケットという歯と歯肉のすきま深くに住み着いて歯周病を悪化させますが、この細菌は毒素をもっており、歯肉が腫れたり、骨を溶かしたりして、歯を支える歯周組織をこわしていきます。これらの細菌は、歯周組織をこわすだけでなく、その細菌の持つ毒素とそれに対する体の反応から全身の病気（全身疾患）にも関係するのではないかと考えられるようになってきました。日本において8020運動（80歳になっても20本以上歯を残そうという厚生労働省の提言）の進展とともに、高齢になって歯周病が進んでも多数の歯を残すようになり、歯周病にかかった高齢者の数が増加しています。多くの高齢者において深い歯周ポケットが残る結果、口の中に多数の歯周病原細菌が存在することになり、全身疾患に対する危険性が高まります。

高齢になると糖尿病にかかる人の割合が増えますが、現在、糖尿病と歯周病との相互関係が注目されており、糖尿病によって歯周病が悪化するだけでなく、歯周病の悪化は糖尿病に悪影響を及ぼすと考えられています。逆に重い歯周病にかかった糖尿病患者さんは、歯周病の治療をすることによって糖尿病のHbA1cの値が改善することが報告されています。

さらに超高齢者社会における主要な全身疾患として、糖尿病だけでなく心臓や血管の病気が認識されており、人の死因として動脈硬化などの心臓や血管の病気が上位にランキングされています。ここで、歯周病にかかると心臓や、血管の病気にかかるリスクが増すと報告されており、血管の病変部位から特定の歯周病原細菌の遺伝子が検出されています。歯周病原細菌のうち、動物実験などで特に*Porphyromonas gingivalis*（Pg菌）が心臓や血管疾患に関わる菌として研究が進んでおり、日本歯周病学会の「歯周病と全身の健康」という刊行物において、この菌が血管病変を引き起こすメカニズムについて述べられています。Pg菌は最も全身疾患に関わる菌として注目されていますが、その他の歯周病原細菌も関わる可能性があります。また、歯周病に関連する可能性のあるその他の全身疾患として妊婦さんの早産・低体重児出産、誤嚥性肺炎、関節リウマチ、慢性腎臓病、非アルコール性脂肪性肝炎などが考えられています。

これらの細菌をコントロールする戦略は、高齢化社会の日本において問題となってきた歯周病のみならず、関連する全身疾患に対するリスク軽減策として期待されます。

今回の講演では、歯周病における歯周病原細菌の全身疾患への関わり、およびこれらの細菌をコントロールする戦略について展望も含めお話しいたします。歯周病予防による歯周病原細菌コントロールの意義をご理解いただき、皆様の口腔の健康のみならず全身の健康に役立てばと願っております。